



Google Cloud  
Anthos Day

# 2つのDXから考える ソフトウェア経営

日本CTO協会 理事 松本 勇氣

自己紹介



# 自己紹介



日本CTO協会理事 / DMM.com CTO

松本 勇氣

~2013年 複数のベンチャー創業・参画

2013年 東京大学工学部卒業、株式会社Gunosy入社

2015年 CTO就任、機械学習や新規事業開発、  
BlockchainのR&Dなどを担当

2018年 LayerX創業後、退任

同年合同会社DMM.com CTO就任、同社のテックカン  
パニー化を担当。

2019年 日本CTO協会理事

現在に至る

日本CTO協会  
について



**日本を世界最高水準の技術力国家にするため  
「日本の企業経営に先端テクノロジーを」**

CTOは他のCxOに比べて歴史が浅い。  
各社個々人がさまざまな失敗を繰り返している

理論が確立  
されていない

先人に学べる  
機会が少ない

経営と技術に  
距離がある

## 代表理事



株式会社レクター 代表取締役  
**松岡剛志**

## 理事 五十音順



株式会社クレディセゾン  
取締役CTO  
**小野和俊**



GMOペパボ株式会社 取締役CTO  
**栗林健太郎**



株式会社VOYAGE GROUP CTO  
**小賀昌法**



株式会社ビジョナル  
取締役CTO兼CPO  
**竹内真**



株式会社メルカリ 執行役員CTO  
**名村卓**



株式会社レクター 取締役  
**広木大地**



ヤフー株式会社  
取締役 常務執行役員 CTO  
**藤門千明**



グリー株式会社  
取締役上級執行役員CTO  
**藤本真樹**



合同会社DMM.com CTO  
**松本勇氣**



カーディナル合同会社 代表社員  
**安武弘晃**

“DXの推進” って何をしたらいいんだろう？



定義が曖昧になりがちなDX。  
日本CTO協会では「2つのDX」を提唱。

組織の「超高速な事業仮説検証能力」  
を多角的にアセスメントする。

明確な目標設定 / 市場レベル比較

テーマ	No	カテゴリ	合計	カテゴリ
data	1	チーム成長と開発効率	5.0	40.0
	2	チームビルディング	6.0	
			6.0	
			6.0	
			5.5	
			2.0	
data	1	顧客体験のデジタル化	4.0	33.5
	2	事業活動データの収集	3.5	
	3	データ整理・分析基盤	3.0	
	4	データ駆動型AIプラットフォーム	4.0	
	5	データ駆動型リソース	4.5	
	6	機械学習プロジェクト管理	3.0	
	7	マーケティング自動化	3.5	
	8	自動的な意思決定	4.0	
			4.0	
			6.5	
			4.0	
			29.5	

XXの項目の数値が低い  
来期はここを強化しよう

市場に比べてここが弱い



### DX Criteriaレポート

DX Criteriaの診断結果を業界・業種ごとにまとめたレポート。

自社の診断結果と比較し、自社の強み・弱みを相対的に把握できる。

### DX レポート

「高成長企業」と「2つのDX」の関係性を定量的に分析したレポート。

高成長を続けるために、どのようにDXを進めるべきか、具体的なアクションまで提言。

### グローバルレポート

アメリカや中国などの最先端デジタル企業のプラクティスをまとめたレポート。

CTO協会の理事たちがキュレーターとなり、世界標準の知識を翻訳してお届け。

### 特集/時事レポート

社会トレンドから、今まさに欲しい知見を迅速に提供

ex)  
デジタル企業のリモートワークプラクティス

政財界に対して、「2つのDX」「ソフトウェアエンジニアのための環境整備」の必要性を発信。

経済再生担当大臣との意見交換



経団連 DX会議でプレゼンテーション

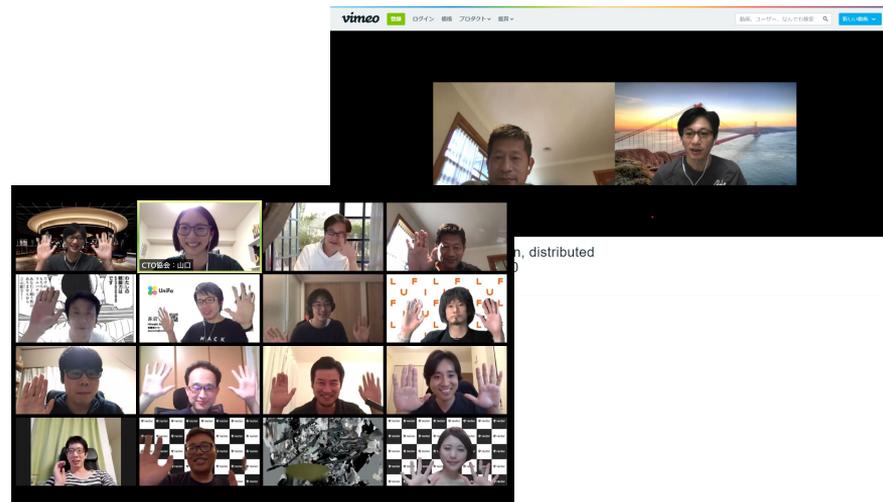


## CTO Conference 2019 Winter



200名以上を超えるCTOたちと、西村経済財政担当大臣からのビデオレター、DX Criteriaの発表など盛りだくさんなコンテンツで大盛況に。

## 各種ウェビナーの実施



参加者の方にDX Criteriaを自己診断いただき解説を行ったオンラインワークショップや、元楽天CTO安武さんよりメンバー型/ジョブ型雇用についてのウェビナーを開催。

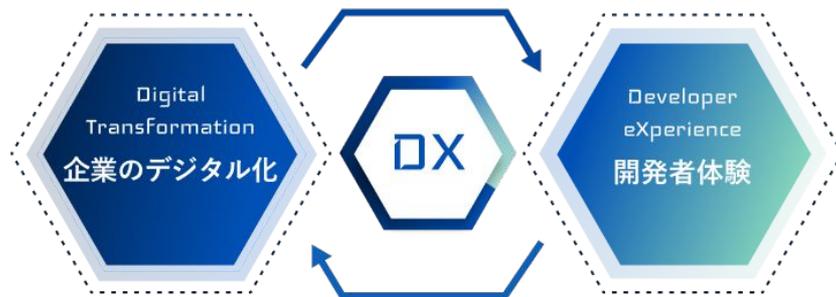
DX動向調査



# デジタル企業DX動向調査レポート - 2020年版

2020/04 日本CTO協会 DX Report WG

# CTO協会の掲げる2つのDX



## Digital Transformaiton

企業がデジタルを活用した変革を行うことで新たな事業の価値創造を実現。

## Developer eXperience

高速な仮説検証を支える開発者組織を構築する。開発者に必要とされる文化・組織・システムを整備する。

# DX動向調査レポート、3つの軸

Digital Transformation、Developer eXperienceの現状について確認する3つの軸に沿って149社にアンケート調査を実施。そこからの傾向をレポート化。

## 顧客接点のデジタル化

Webやアプリ、SNS、O2Oなど顧客との接点を情報として蓄積し、素早いフィードバックに活かしているか。

## ソフトウェア コントローラビリティ

自社ビジネス全体のシステムを柔軟に改善できるように設計・制御するような投資がされているか。

## 開発者体験

上記を支えるような人材の獲得・育成・生産的な環境に対しての投資をしているか。

## 概要

高成長なデジタル企業では、**経営のデジタル化** (Digital Transformation)の実現のために、**開発者体験** (Developer eXperience)への投資も非常に重視することがわかった。「2つのDX」の両輪が必要であることを示す事実が複数認められた。

## 高成長する デジタル企業の共通点

1

経営レベルの  
技術理解とデータ活用

技術担当役員を設置する**場合が多い**。また、カスタマーサポートやマーケティングなどの現場がツールを積極的に活用し、**意欲的な問題発見**を行う傾向が見られた。

2

高品質と改善速度の両立

システム改善は**毎日・毎週のレベルで高頻度**に行われており、その上で障害にも強い設計を実現し、**高品質と速度がトレードオフでない**ことを示した。

3

開発者環境への積極投資

給与面のみならず、**環境面でもより良い開発者体験と働きやすさを追求**している。このことが多くの技術者の採用成功につながり、**ビジネスの速度向上**が実現されている。

調査に見る  
強いDX企業とは



# Agilityの獲得

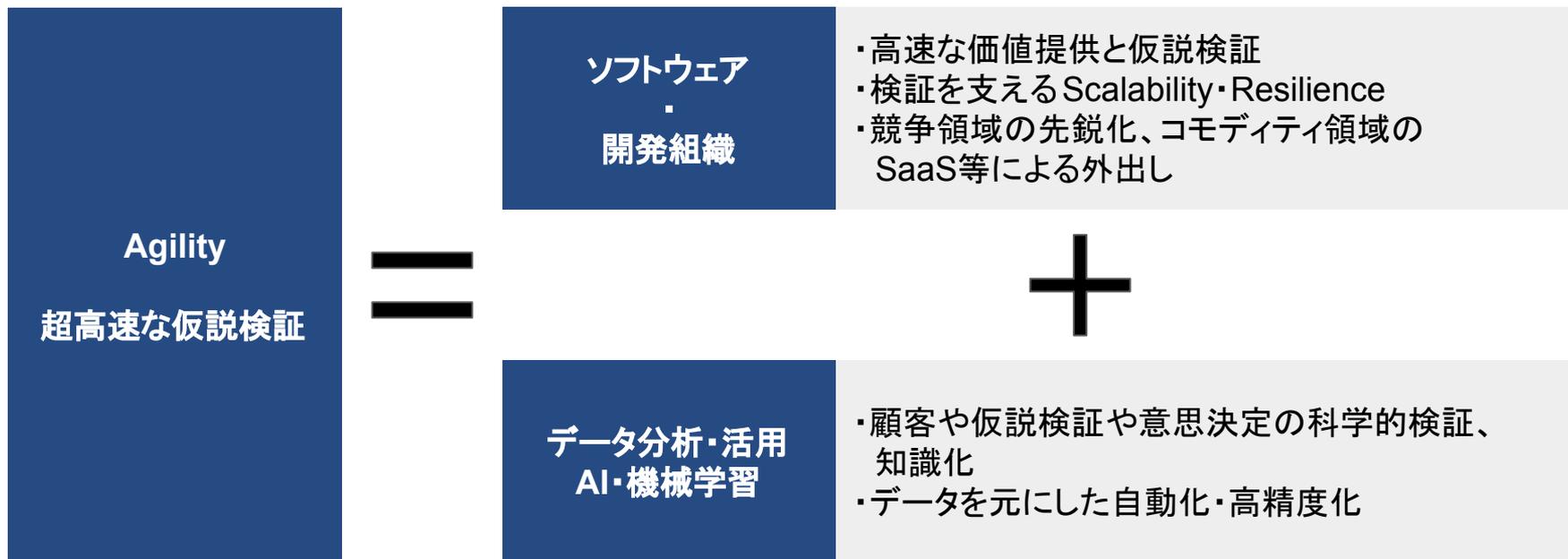
クラウド	大規模データ 処理基盤
機械学習 深層学習	IoT
SaaS	DevOps



インターネット以降 発生した変化	
リリース頻度	月・年から日・時間の単位へ高頻度化
影響範囲	地域・国から一気に全世界へ拡大
サービス規模	数千万人・数億人へ同じサービスを提供

この20年の技術やその思想の変化が、事業サイクルの速度を高め、新たな事業機会が生まれている。その世界では、超高速な仮説検証能力（≒Agility）こそが、ソフトウェア中心な経営への転換における最重要課題。

# Agility高い事業体となるために





## 3. 会員種別

### MEMBERSHIP



#### 個人会員 Personal Contributor

---

当協会の理念・活動内容にご賛同いただき、知見の集積・共有にご協力いただけるCTO職経験者。



#### 法人会員 Corporate Membership

---

当協会の理念・活動内容にご賛同いただける法人。  
年会費1口30万円。部門単位でも入会可。

1

先端テクノロジーを用いたビジネスイノベーションの発掘

2

デジタル化時代の経営・技術者人材との接点と学習

3

コラボレーションによるビジネス機会の拡大・創出

	法人会員
CTOコミュニティへの参加	○
海外CTOとの交流	○
各種調査・レポートの閲覧	○
調査・レポートの社内共有	○
会員限定のイベント参加/ 協賛ご案内	◎*1
会員費	30万円/年会費
CTO以外の方のコンテンツの閲覧、 コミュニティ・交流会への参加	○*2

\*1 イベントごとにレギュレーションは変わりますが、法人会員様はイベント参加料が原則免除となります。またイベントの協賛について、早い段階でお申込みがいただけます。

\*2 口数に応じて、参加人数が変わります。

# 法人会員一覧(一部)



Google Cloud



PERSOL

日本経済新聞



Link and Motivation Group



その常識、変えてみせる。



**Thank you**